



校長室だより 足立区立第九中学校

第121号 令和元年12月2日発行 長塚琢磨



【令和元年を締めくくる！】

今年は、5月から「令和」に元号が変わった歴史的な年といえます。また、生徒にとっては、それぞれの学年が一生に一度しかない大切な年といえます。生徒たちには、この1年間で自分がどのくらい成長したのか振り返ってみてほしいと考えています。3年生には、義務教育修了の年度であることを踏まえ、中学校に入学したときの自分と今の自分を比較するなど振り返ってみてほしいと考えています。そして素敵な自分に成長できた理由として、自分の努力、仲間の助言、親や先生からの助言が出てくるはずです。あと一ヶ月で令和元年が終わりますが、残りの時間を有意義に過ごし、自分を誇れる、自分が納得いく素敵な締めくくりをするようご家庭でも話していただければ幸いです。



【素敵な自分を磨くためのチェック！】

毎年、次の項目を基本に全生徒に自己診断をしてもらい、自己の生活に生かすとともに、翌年の第九中学校の教育について検討しています。保護者の皆様も知っておいてください。

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 学校生活に満足していますか | <input type="checkbox"/> 運動・スポーツに関心がもてましたか |
| <input type="checkbox"/> 挨拶はしっかりできていますか | <input type="checkbox"/> 体力は高まりましたか |
| <input type="checkbox"/> 学校での学習に努力していますか | <input type="checkbox"/> 家庭学習を1時間以上やっていますか |
| <input type="checkbox"/> 学校行事等では頑張りましたか | <input type="checkbox"/> 身体活動（運動や手伝い等）をしていますか |
| <input type="checkbox"/> 部活動等で頑張りましたか | <input type="checkbox"/> いじめをしないさせないようにしていますか |
| <input type="checkbox"/> 人のためになることをしましたか | <input type="checkbox"/> 自分には良いところがありますか |

【12月に贈る詩】

九中生には、厳しさを乗り越え力強く未来を切り拓いてほしいので、この詩を贈ります。

刃物のような冬が來た
火事を出せ、雪で埋めろ
しみ透れ、つきぬけ
僕に来い、僕に来い
僕は冬の力、冬は僕の餌食だ
冬よ
草木に背かれ、虫類に逃げられる冬が來た
人にいやがられる冬
きりきりともみ込むような冬が來た
きつぱりと冬が來た
八つ手の白い花も消え
いちょうの木もぼうきになつた
冬が來た
高村光太郎

[世界人権デー・人権週間！ 人権について考えよう！]

本校では「思いやり」を教育の柱の一つとして、自他を大切にすることに取り組んでいます。一人一人が様々な考え方や素敵な力をもっています。その違いのよさを認め、発揮できる社会をつくっていきたいですね。

1948年12月10日に、国際連合の総会で、すべての人民と国とが達成すべき共通の基準について宣言がありました。1950年には、12月10日を「世界人権デー」とし、記念行事を行うことに決議されました。



この機会に、私たちも人権について考え、一人一人を大切にし、いじめ等を許さない、よりよい社会の実現に向け積極的に行動し、さらに素敵な「学校・まち」にしていきましょう。

[税に関する作文コンクール3名受賞！ 税について考える！]

税について、「消費税が10%に上がって大変だ」などの話はよく聞きますが、税金の必要性や私たちの生活にどのように有効に使われているかを深く考えたことがない人が多いのではないでしょうか。

11月27日（水）に、第3学年の3名が「税に関する作文コンクール」で優良賞を受賞しました。租税という視点から様々なデータ等を調べ、よりよい社会をつくることについて自らの意見をもち、それを分かりやすく発表することは大変素晴らしいことだと感じました。私も生徒の発想から学ばせてもらいました。



表彰式後の記念撮影

[小中連携教育の推進！ 9年間の義務教育の意味とは？]

日本では、小学校第1学年から中学校第3学年までの9年間を義務教育とし、基礎的な学力と主体的に学ぶ態度等を育成して、国民としての生きる力の基礎を身に付けることとしています。したがって、小学校・中学校においては、子供の発達の段階を踏まえ、学びの体系化等を教職員が意識した教育実践が必要です。



11月20日（水）の放課後に第九中・梅島小・梅二小・亀田小の全教員が集まり、児童・生徒の発達の段階を考えた生活習慣やよりよい授業づくりについて話し合いをもちました。

保護者の皆様も、幼児期から小学校・中学校と成長する過程で、自立心や生活習慣、健康の保持増進など、生徒がさらに立派に向上するようご指導をよろしくお願ひいたします。

コラム：「ティーチング」と「コーチング」

10月31日（木）と11月1日（金）に全国学校体育研究大会に参加し、Jリーグの東京FCの監督としてチームを躍進させたコーチングで有名な阿久根謙司氏の話を聴いてとても勉強になりました。



彼は、何でもやってもらえる便利な社会が指示待ちの人間を育てるなど自立を妨げる結果となっていると指摘し、自分で考え行動できるようコーチングすることの重要性を語った。

私が最も印象に残ったのは、「創造性、積極性、個性などを発揮し自発的に行動する力を引き出すためには、基本的なことのティーチング（教えること）の上にコーチング（考えさせること）が必要である」「結果だけでなくプロセスややる気を評価すること、個人差を認め、立場を尊重し、耳を傾け共感することが重要である」という言葉でした。

「木の上に立って見る（親）」視点で、いつも観て、よさを知り、会話と愛情で、急激に変化する社会にも適切に対応できる次代の形成者を育成することの重要性を学びました。